

# にいがた 畜産協会たより

公益社団法人  
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15  
全農にいがた第2ビル内  
TEL.025-234-6781~6783



畜産安心ブランド生産農場認定式・交流会



優秀畜産表彰会・畜産経営セミナー



畜産に携わる女子会

## 目次

- ◆平成27年度新潟県農林水産部畜産課の  
主な事業を紹介します ……(2)
- ◆平成26年度臨時総会を開催 ……(3)
- ◆平成27年度事業計画と収支予算の概要 ……(3)
- ◆平成26年度畜産経営指導実施結果 ……(4)
- ◆優秀畜産表彰会・畜産経営セミナーの開催 …(5)
- ◆畜産安心ブランド生産農場交流会開催 ……(6)  
～新たに15農場に認定証を交付～
- ◆畜産に携わる女子会を開催 ……(6)
- ◆声のコーナー ……(7)  
「守り受け継いで」  
酪農経営：新発田市 阿部 雄太郎  
「私の夢」  
酪農経営：胎内市 高井 智江
- ◆畜産安心ブランド生産農場だより ……(8)  
新潟市：近藤畜産
- ◆畜産物市況 ……(8)
- ◆編集後記 ……(8)

# 平成27年度新潟県農林水産部畜産課の主な事業を紹介します

飼料価格の高止まり等による生産コストの増加、高病原性鳥インフルエンザ等の悪性伝染病の発生リスクの増大など、近年の畜産経営を取り巻く情勢は一層厳しさが増しており、小規模な畜産経営を中心に戸数の減少が続いています。

経営を安定的に継続していくためには、生産拡大や付加価値向上などにより所得を確保し、後継者にとっても魅力ある経営を実現する必要があります。

県では「次世代に継承できる収益性の高い畜産経営の育成」、「定時定量出荷が可能となる畜産物の生産拡大」、「水田等地域資源を活用した飼料自給率の向上」、「家畜衛生対策の徹底」及び「県産畜産物の安全性確保に向けた取組の推進」を柱として、重点的な施策を推進してまいります。

## 1 次世代に継承できる収益性の高い畜産経営の育成

中心的な畜産農家の明確化を図り、法人化や規模拡大・6次産業化を支援するとともに、経営面や技術面等での支援を行い、収益性の高い魅力ある経営を育成します。

特に、酪農においては、後継牛の確保などの経営資源の維持・拡大や後継者育成のための支援を実施します。

- ▶ 畜産経営改善等指導事業 5,844千円
- ▶ 酪農生産基盤強化対策事業 17,657千円

## 2 定時定量出荷が可能となる畜産物の生産拡大

売れる畜産物の生産拡大に向けて、「にいがた和牛」は安定供給に向けた生産拡大、「にいがた地鶏」は認知度向上と品質向上による業務用需要の拡大を推進します。

特に、にいがた和牛は全国的な肥育素牛の減少等に伴う価格の高騰が大きな課題になっていることから、価格変動の影響を緩和できる肥育素牛の生産体制を支援します。

- ▶ 「にいがた和牛」グレードアップ事業 5,918千円
- ▶ にいがた地鶏振興事業 1,600千円
- ▶ 酪肉連携肥育素牛生産システム構築事業 [新規] 9,300千円

## 3 水田等地域資源を活用した飼料自給率の向上

県内で生産される飼料用米について、畜産農家で飼料費低減につながる地域内流通システムの構築を進めるとともに、大口需要者等での利用促進を進め、畜産農家における飼料自給率の向上を図ります。

- ▶ 飼料費低減対策事業 1,006千円
- ▶ 農林県単（県産飼料用米利用拡大支援）

## 4 家畜衛生対策の徹底

農場内にまん延した場合に経営的な損失の大きい家畜伝染病の防疫対策を強化するとともに、社会に大きな影響を及ぼす高病原性鳥インフルエンザ等の悪性伝染病の万が一の発生に備え、監視体制と発生防止対策を徹底します。

- ▶ 悪性家畜伝染病危機管理対策強化事業 4,856千円

## 5 県産畜産物の安全性確保に向けた取組の推進

消費者に安全・安心な県産畜産物を提供するため、農場段階からHACCP方式による衛生管理手法の定着を進めます。

- ▶ 選んで安心「にいがた畜産」拡大事業 4,200千円

（新潟県農林水産部畜産課）



## 平成26年度臨時総会を開催

平成26年度臨時総会を新潟市西区の「全農にいがた県本部ビル」において3月24日に開催しました。

### 出席会員数

正会員64名中、本人出席20名、書面出席44名の出席により、平成26年度臨時総会が成立

### 会長挨拶

出席会員と来賓に謝意

農家数及び家畜頭数の減少が続き生産量が伸びないため、子牛価格や畜産物相場が高値を維持している一方、円安による配合飼料価格の高止まりにより生産コストの上昇、収益性の低下が心配される。

当協会では、国が地域ぐるみで収益力の向上を図るために実施する「畜産クラスター事業」に新たに取り組むとともに、関係機関、団体と連携して畜産経営体への支援を強化する等挨拶

### 新潟県農林水産部参事畜産課長祝辞

畜産農家の高齢化や後継者不足等により小規模な畜産経営体を中心に戸数が減少していることから、畜産経営の体質強化、家畜防疫対策の徹底により生産基盤の強化を図り、畜産の振興に尽力する旨祝辞

### 議事録署名人の選任

議事録署名人2名（新潟県農業信用基金協会専務理事、一般社団法人新潟県配合飼料価格安定基金協会常務理事）を選任

### 提出議案

第1号議案 平成27年度事業計画及び収支予算、資金調達及び設備投資の見込みについて

第2号議案 平成27年度会費について

第3号議案 平成27年度借入金の最高限度額及び借入先の決定について

第4号議案 役員報酬の決定について  
附帯決議

阿部専務理事が4議案の内容と附帯決議について説明し、賛成多数により、原案どおり承認

## 平成27年度事業計画と収支予算の概要

平成26年度臨時総会で決定した平成27年度の事業計画と収支予算の概要は次のとおりです。

### 1 基本方針

配合飼料価格の高止まりや輸入粗飼料価格の上昇により、特に肉用牛肥育経営では厳しい経営状況が続き、戸数、頭数の減少により生産基盤の弱体化が懸念されることから、当協会は畜産クラスターに関する事業に新たに取り組むほか、消費者が求める安全で安心な県産畜産物の安定供給を推進するため、農林水産省及び（独）農畜産業振興機構が実施する補助事業実施主体の公募に参加し、生産から消費に至る公益性の高い事業に積極的に取り組みます。

### ○ 当初予算総額（一般正味財産）

収入額（経常収益）	支出額（経常費用）	当期一般正味財産増減額
299,265千円	298,837千円	428千円

### 2 主な事業

#### 公益目的事業

#### (1) 補填関連事業

##### 補填金等交付計画額

事業名	交付計画額
肉用子牛生産者補給金制度	27,300千円
肉用牛繁殖経営支援事業	6,000千円
肉用牛肥育経営安定特別対策事業	185,000千円
合計	218,300千円

#### (2) 指導関連事業

##### 指導実施計画戸数

事業名	指導計画戸数
畜産経営改善指導事業	24戸
畜産特別資金等推進指導事業	3戸

#### (3) 助成関連事業

##### 事業予算額

事業名	予算額
肉用牛経営安定対策補完事業	2,310千円
家畜生産農場清浄化支援対策事業	1,852千円
死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業	7,474千円

#### (4) 認定事業

##### 畜産安心ブランド生産農場認定計画戸数

畜種	乳用牛	肉用牛	合計
認定予定農場数	10戸	10戸	20戸

#### その他事業

にいがた和牛推進協議会の事務局を運営するほか、新潟県産畜産物の消費拡大に資するため畜産物理解増進事業などを実施します。

## 平成26年度畜産経営指導実施結果

(集計戸数：7戸)

平成26年度のコンサルは前年度に引き続き、十分な調査と対策検討ができる「総合指導」に特化して、酪農経営7戸、肉用牛繁殖経営3戸、肉用牛肥育経営6戸、養豚経営8戸の指導を実施しました。

今回、技術及び経営成績の平均を指標値（平成26年度改訂）と比較し、今後改善が必要な課題と対策を整理しました。

### 【酪農経営】

#### ～適期の人工授精、徹底した衛生対策を～

経産牛平均分娩間隔は、最も好成績の事例でも14.6ヶ月（指標値14ヶ月以内）であり、早急な改善が求められる技術項目のひとつです。分娩間隔の長期化は、分娩後の初回種付の受胎率が低い事に加え、受胎に要する種付回数が多いことが主要因となっているので、分娩後50～70日の観察を徹底し、適期に人工授精する必要があります。

また、繁殖成績の低迷から、若齢の経産牛を廃用・淘汰する事例が多く見られるので、長期連産を図るため、繁殖技術レベルを高める必要があります。

経産牛1頭当り産乳量は、指標値の9,500kgを達成した事例が3戸と半数を下回っていました。乳量が少ない事例の改善対策として、適期種付けによる分娩間隔の短縮、乳房炎の発生防止が挙げられますが、個体能力自体が低い牛も飼養されているので、能力が高い牛への更新が必要です。

体細胞数は、指標値の160千個以下を達成した事例がなく、早急な改善が求められる技術項目のひとつです。乳房炎の発生が主な原因となっているので、早期発見・早期治療の他、清掃・消毒など徹底した衛生対策が重要です。

所得率は、指標値を達成した事例は3戸のみであり、主な原因として、経産牛1頭年間乳量の低迷など生産性がまだ低いこと、飼料価格の高止まりなどが挙げられます。

区 分	単 位	26年度	指 標 値
経産牛平均産歴	産	2.8	3.5 以上
経産牛平均種付回数	回	3.5	2 以内
経産牛平均分娩間隔	ヶ月	16.5	14 以内
経産牛1頭当り産乳量	kg	8,622	9,500 以上
体 細 胞 数	千個	276	160 以下
乳 飼 比 (全体)	%	57.8	50 以下
所 得 率	%	12.1	15 以上

### 【肉用牛繁殖経営】

#### ～飼料給与体系の見直し、飼養環境の改善を～

平均種付回数の指標値（1.5回以下）及び分娩間隔の指標値（12ヶ月以内）を達成した事例は2事例ありましたが、未達成の1事例については、1回授精による受胎率の向上など、繁殖管理技術の向上を図る必要があります。

また、子牛の日齢体重が指標値を達成した事例は、雄子牛2戸、雌子牛1戸と少ないため、個体観察の強化による飼料給与体系の見直しや冬場の防寒対策など飼養環境の改善を図るとともに、疾病予防を徹底し、子牛の日齢体重の向上を図ることが必要です。

(集計戸数：3戸)

区 分	単 位	26年度	指 標 値
雌子牛販売価格	円	453,767	——
雄子牛販売価格	円	560,259	——
平 均 産 歴	産	5.7	7 以上
平 均 種 付 回 数	回	1.4	1.5 以下
平 均 分 娩 間 隔	ヶ月	11.9	12 以内
子 牛 事 故 率	%	0	3 以下
雌子牛日齢体重	kg	0.95	0.96 以上
雄子牛日齢体重	kg	1.08	1.09 以上
所 得 率	%	27.2	30 以上

### 【肉用牛肥育経営】

～健康な素牛の選定、飼養管理の改善を～

出荷月齢は、指標値の2ヶ月以内を達成した事例がなく、早急な改善が求められる技術項目のひとつです。健康な素牛の選定、飼養環境の改善などにより、疾病の予防や増体量の向上を図る必要があります。

事故率は、指標値の2%以下を達成した事例が半数であり、未達成の事例では日常観察の徹底による異常の早期発見と対策の早期実行が必要になります。

牛枝肉価格は堅調に推移しましたが、所得率の指標値（6%以上）を達成した事例は2事例のみでした。肥育素牛価格の高騰や配合飼料価格の高止まりなどによるコストの増加が要因のため、前述の対策の実施により、肥育の長期化防止に努め、コスト低減を図る必要があります。

(集計戸数：6戸)

区 分	単 位	26年度	指 標 値
去勢牛出荷月齢	ヶ月	29.3	28 以内
去勢牛1日当り増体量	kg	0.82	0.85 以上
枝肉格付4等級以上率	%	86.7	80 以上
事 故 率	%	2.7	2 以下
所 得 率	%	3.9	6 以上

### 【養豚経営】

～授乳期の母豚と子豚の飼養管理の強化を～

離乳時育成率は指標値（90%以上）を達成したのは1事例のみで、哺乳子豚の下痢防止や保温対策、圧死対策が必要です。

離乳から受胎平均日数の指標値（12日以内）を達成したのは1事例のみで、最も改善の遅れている技術項目のひとつです。離乳後の発情再起が遅れていることが主要因なので、授乳期の母豚が栄養不足にならないよう管理する必要があります。

肉豚事故率が20%を超えた事例が2事例あり、増殖性腸炎や寄生虫対策として、豚舎の換気や水洗・消毒など衛生対策の強化が必要です。

今期は、豚流行性下痢（PED）の影響で堅調な豚枝肉価格となり、所得の向上につながった事例が多く見られましたが、外部要因が収益に大きく起因しているため、今後とも前述の対策の実施により、飼養技術の向上に努める必要があります。

(集計戸数：8戸)

区 分	単 位	26年度	指 標 値
離乳時育成率	%	83.1	90 以上
離乳から受胎平均日数	日	18.2	12 以内
1日当り増体量	g	646	670 以上
肉豚事故率	%	10.3	5 以下
所 得 率	%	9.0	10 以上

## 優秀畜産表彰会・畜産経営セミナーの開催

2月13日、優秀畜産表彰会及び畜産経営セミナーを開催しました。

優秀畜産表彰会では、(有)花田養豚場（十日町市）に優秀賞、黒毛和種繁殖経営の涌井善雄氏（上越市）に奨励賞が授与されました（優秀事例を当協会のホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください）。

畜産経営セミナーでは、公益社団法人中央畜産会の南波利昭副会長が、「これからの畜産経営の方向性について」と題し、国際的なデータを用いて、畜産経営の展望等について講演しました。

参加者アンケートでは、97%の方々から「参考になった」との回答をいただきました。



賞状授与の様子  
(有)花田養豚場(田中代表取締役)

## 畜産安心ブランド生産農場交流会開催 ～新たに15農場に認定証を交付～

2月25日、全農にいがた県本部ビルにおいて、認定農場、認定委員会委員、関係機関・団体等62名の出席で、平成26年度畜産安心ブランド生産農場交流会を開催しました。

認証式では、畜産安心ブランド認定委員会の楠原征治委員長から、平成26年度に認定申請のあった乳用牛12、肉用牛1、養豚1、採卵鶏1、計15農場について、全ての農場が認定の基準に適合して認定を決定したこと、これらの農場では生産性・生産物の品質向上に努力していること、そして多くの農場では後継者が意欲的に取り組んでおり、これからの発展が期待できるとの審査講評がありました。

阿部専務理事から各農場代表者に認定証が手渡された後、認定農場の代表として漆間平さん（肉用牛経営）が「今後一層、安全・安心な畜産物の提供に努める」旨の心強い決意表明を行いました。

続いて交流会に移り、新潟大学農学部フィールド科学教育センター村松ステーションの吉田智佳子助教が「大学アイスで伝える畜産の素晴らしさと地域に根ざした畜産安心ブランド認証について」と題する講演があり、同ステーションもクリーンミルク生産農場に認定されていることを紹介し、学生の実習内容と園児や児童、市民向けの酪農教育ファームで、酪農の楽しさや乳製品のおいしさ、畜産の良さなどを啓発する取り組みなどを話されました。大学院生と畜産の素晴らしさを消費者に伝えようと、大学産牛乳のアイスミルクなど「ミルクプロジェクト」の成果も紹介されました。

続いて、テーマ「安全・安心な畜産物を提供するための生産現場での取り組みと今後の展開について」意見交換を行い、活発な交流会となりました。

### 認定農場数と認定率（平成26年12月31日現在）

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	75	73	56	24	20	248
(%)	(32)	(57)	(46)	(62)	(87)	(46)



認証された生産者の皆さん

## 畜産に携わる女子会を開催

平成27年3月9日、新潟市内のホテルを会場に、新潟県畜産振興協議会との共催により「畜産に携わる女子会 ～新たな仲間づくりに向けて～」を開催しました。

前年度までの不特定多数の参加者による講演会方式を一新し、現在、畜産に携わり、六次産業化や規模拡大等に取り組んでいる、または模索している若い世代の女性に声をかけて参集してもらい、地域や畜種の枠を超えた女子会を開催しました。

年度末の3月開催となり、参加者は少人数となりましたが、第1回目の開催で、ほとんどが初めて出会った方々であることから、特にテーマは定めず、経営概況を含めた自己紹介を行い、畜産に限らず女性特有の悩みなどについても意見交換を行いました。

参加者からは、畜産に携わってからの苦労を乗り越えてきた経過や将来の目標に向けた前向きな取り組みなど、自由で活発な発言がありました。

また、既に六次産業化を行い、商品として販売している（株）神田酪農の低温保持殺菌牛乳「白鳥の翼」と（株）鎌田養鶏の「カタラーナ」の試食を行い、非常に美味しいと好評でした。

参加者の中には、新潟県外の出身者も3名おり、これまで、このような集まりがなかったので畜産に携わっている女性に出会えて良かったとか、畜産以外の話もできる仲間が増えたなどの声が多く聞かれました。

女子会終了後には、参加した女性同士で連絡先の交換や情報交換がさらに続きましたが、来年度も開催してほしいとの意見が多かったことから、継続的に開催したいと考えておりますので、今回、参加できなかった方も是非、ご参加頂きますようお願いいたします。



熱心に情報交換をする参加者



酪農経営

新発田市金塚

阿部 雄太郎



酪農経営

胎内市苔ノ実

高井 智江



## 『守り受け継いで』

我が家の酪農経営は昭和の始め頃に、曾祖父が千葉県の牧場から買い付けた僅かな頭数の乳牛を自宅に並んで建てられた小さな牛舎で飼うようになったところから始まったそうです。

私は曾祖父から数えて四代目の酪農家ということになります。

傍に牛がいることが当然という環境で生まれてこの方、ずっと過ごしてきましたが、幼い頃から酪農という仕事に対して特別に興味を持っていた訳ではありません。むしろ「家が酪農家の友だちなんて誰もいないし、なんだか恥ずかしいな…ちょっとかっこ悪いな…」と、ネガティブな感情を抱いていたのを思い出します。

そんな意識が変わったのは、就学した酪農学園大学短大部にて、全国各地から集まった酪農経営者を目指す仲間たちとの出会いがあったからです。

「酪農という仕事について、牛という動物について、酪農家としての将来について。」

それまで同世代の仲間とそういった話を交わすことが殆ど無かった私は、少しのカルチャーショックと多くの良い刺激を受けました。

そして卒業後、実習を経て家へ戻ったのち、臨時の酪農ヘルパーとして仕事をさせて頂いたり、若手の酪農家の集まりに参加したりする中で、この地域にも酪農の現場で活躍されている多くの先輩方や、私と同じ道を歩んでいる近い世代の仲間たちがたくさんいることを知り、交流を重ねる中で、家業を継ぐという意志をより一層強くすることになりました。

生産資材の高騰、止まらない農家戸数の減少など、私が就農してから現在までの八年の間に、更に酪農を取り巻く環境が厳しくなったことを強く感じます。

その時々を経済情勢や環境の変化などによって様々な影響を受けるのがこの仕事です。これから二十年・三十年先まで、曾祖父が興し、祖父母が、そして両親が盛り立ててくれたものを受け継ぎ発展させて行くために、そのような変化を敏感に感じ取り、柔軟に対処出来るような経営者を目指して勉強し努めていきたいと思っています。

## 『私の夢』

私は農業高校を卒業後、就農して今年で6年目になります。早起きは最大の苦手なことで、寝坊しては、この仕事は向いていない！！と何度思った事か…。

(笑)それでも続けているのは大好きな動物、牛たちのお陰だと思います。高校で進路を決める時、好奇心旺盛な私はやりたい事がたくさんあり、就農する事にとっても不満でした。プライベートも仕事も家族と一緒に。周りは自分のやりたい事を学びに進学したり就職したり…。農業って地味でダサイ仕事…と自分自身にコンプレックスを持っている時期もありました。しかし、農業大学の生徒さんとの出会いでそんな考えを持っていた自分が恥ずかしくなりました。家畜人工授精師の資格を取得するために大学へ行き、周りの生徒がちょうど同年代だった事もあり、毎日遊んで楽しく過ごしていたのですが、(もちろん終盤に必死で勉強しました笑) 農業に対する思いややる気がすごくて、同年代の農業をしたいという人たちがこんなにいるんだ！と元気づけられました。

酪農の仕事は、決して楽な仕事ではないけれど、毎日牛たちと接していると、いい事もたくさんあります。先日、我家の一番やんちゃな牛が脱走してしまった時も、「おいで～！」と呼んだら振り向いて寄って来てくれました。言葉は通じないけれど、毎日お世話をしていると牛も分かってくれるのかと嬉しくなりました。

そんな私の夢は、ジェラートSHOPを開く事です。自分が育てた牛たちの牛乳を使って、ジェラートや乳製品を作り、みんなに元気に笑顔になってもらう。そんな場所を作りたいです。今はそのための勉強と、やりたかった仕事でもあるアパレルのアルバイトもしながら、酪農をしています！農業とアパレルって全然違う仕事だけれど、販売業を通して学んだ事をいかして、女子ならではの視点で6次産業をしたいです。8月には、大学で出会った彼と結婚して農業をしていきますが、感謝と笑顔を忘れず頑張ります♡！！

# 畜産安心ブランド生産農場だより

新潟市：近藤畜産

私たち近藤畜産は新潟市北区の日本海に面した平野で豚を飼育しています。種豚150頭を飼育し、一貫生産で毎月子豚160頭、肉豚120頭を出荷しています。今は家畜保健衛生所の指導のお陰で子豚の発育や出荷数も良くなり、去年の成績では抗生物質は一切使わずに事故率5%という高い生産率が実現でき、健康で安心な肉豚を育てることができました。

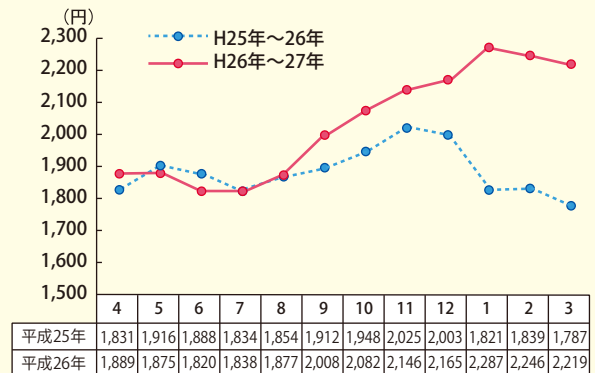
育成豚の飼料には穀物飼料をはじめ、新潟県産の米粉とパンを乾燥させたものを混ぜ、子豚は生後一カ月で離乳し、専用畜舎に移して密飼いはせず、できるだけストレスのかからない飼育法を心がけています。豚の育ちやすい環境を作るため、平成10年に糞処理のために堆肥コンポを、平成14年には尿処理のために浄化槽を整備しました。

私たちの飼育した肉豚は4年前から『甘豚』というブランド名で自分の所で精肉し、飲食店に卸しています。まだ一般の消費者の知名度は低く、『甘豚』のおいしさを知ってもらうため自宅に肉料理のカフェを6月にオープンさせる予定です。そこでは『甘豚』のおいしさをとことん追求し、ダシから豚骨を使った角煮入りのスープカレーや、日替わりで肉料理を提供する予定です。今後はソーセージ等の加工品も考えています。自分たちが丹精込めて飼育した肉豚を商品にし、これからもっと沢山の人に『甘豚』の美味しさを味わってもらうことが私たちの夢です。

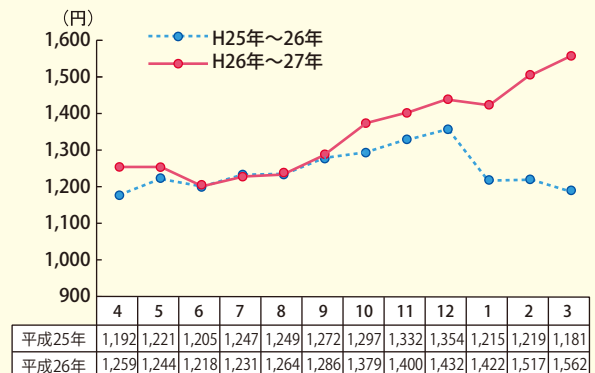


# 畜産物市況

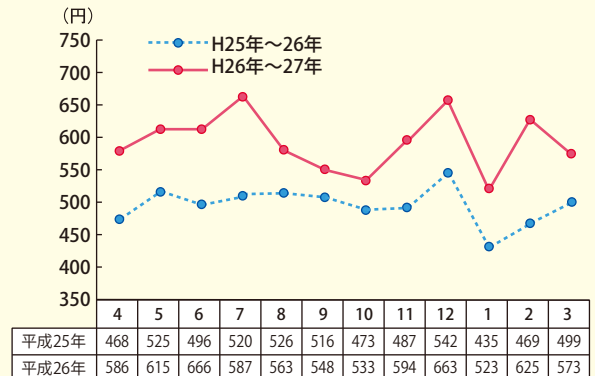
## 牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



## 牛枝肉相場・交雑種去勢B-3(東京市場)



## 豚枝肉相場・上(東京市場)



## 編集後記

ようやく春がやってきて、過ごしやすい気候となりました。人、家畜共々、厳しい冬が終わりほっとしているのではないのでしょうか。

春と言えば花見ですね。この原稿を書いているのは4月の頭ですが、新潟の桜は4月10日頃に満開になると予報されています。この刊が発行された頃、皆様は花見に行かれたのでしょうか。花見の由来は奈良時代の貴族の行事だそうです。約1300年前から続く風習と考えると、歴史を感じますね。

本号では、優秀畜産表彰と畜産経営セミナー、畜産安心ブランド生産農場交流会、畜産に携わる女子会の紹介をいたしました。どの集まりも盛況で、畜種や立場を超えて、参加者の皆様は色々な話題に花を咲かせていました。今年度は、どんな畜産の話題の花が咲くのか楽しみです。

(荒井 記)